

第 13 回 さっぽろスリムネットフォーラム

元気なうちにお片づけ

～モノを手放すコツ～

報 告 書



目 次

■開会挨拶	2
■第 13 回スリムネットフォーラム	3
・講演会 元気なうちにお片づけ ～モノを手放すコツ～	
・トークディスカッション〔質疑応答〕	
「元気なうちにお片づけ ごみの分け方・出し方について」	

【 開 催 概 要 】

- 開催日時 / 2021 年 2 月 19 日（金）13：30～15：00（開場 13：00）
- 会 場 / ちえりあ 6 階講堂（札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 1-10）
- 主 催 / ごみ減量実践活動ネットワーク
- 運 営 / 特定非営利法人 環境り・ふれんず
- 参加者数 / 37 名

スリムネットフォーラムの

開催にあたり



ごみ減量実践活動ネットワーク

委員長 寺嶋 忠雄

本日は、お忙しい中をお集まりいただき誠にありがとうございます。

また、皆様には、日頃からごみの減量にご協力いただきまして、この機会に改めて感謝申し上げます。

「ごみ減量実践活動ネットワーク」は、通称を「さっぽろスリムネット」と言いまして、平成 17 年に設立され、札幌市のごみを減らすために、市民・事業者・札幌市が一体となって、ごみを減らすための仕組みづくりや市民の皆さんへの広報などの活動を行っています。

本日のスリムネットフォーラムもおかげさまで、13 回目を迎えることができました。実はこのフォーラムは、昨年 3 月に 13 回目を迎えるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症がちょうど拡大し始めた時期にぶつかり、やむを得ず開催直前で中止となってしまいました。

今回、同じテーマにて再チャレンジとなったわけではありますが、コロナ禍が依然続いている中、感染防止のために例年に比べ大幅に定員を抑えなければなりませんでしたが、一人でも多くの方にお話を聞いていただきたく、今回初めてインターネットでの同時配信も行っているところであり、さらに、明日、明後日の同じ時間帯には再配信もされますので、おそらく会場で定員いっぱいで開催するよりも、たくさんの方々にお話を聞いていただけるのではないかと考えております。

さて、昨今の少子高齢化社会において、誰かが亡くなった際に一時的に多量に出るごみが問題となっています。この「一時多量ごみ」問題は、誰もが直面するものではありませんが、その当事者は故人では無く、主に子や孫などの親族となります。残される親族に負担をかけないためにできること、それが「元気なうちにお片付け」です。

本日は、整理収納アドバイザー等各種資格をお持ちで、現場経験も豊富な平野由美さんをお招きし、ご講演や質問へのご対応をしていただくこととなっております。

ぜひ、今回のフォーラムを通じて、元気なうちに少しずつ片づけていくことの必要性について考え、モノを手放すコツをつかんでいただければと思います。

最後に本フォーラムの開催にあたり、講師を快くお引受けいただいた平野様に深く感謝の意を表すとともに、このフォーラムが実り多いものになることを祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



■講演会

元気なうちにお片づけ

～モノを手放すコツ～

【講師ご紹介】

平野 由美さん 環境カウンセラー

整理収納アドバイザー・高齢者の整理収納サポーター・相続知財鑑定士等の資格を有する。

主な業務として、住み替えやお片づけに伴う不用品の処分、お焚き上げ供養の手配、ハウスクリーニング業者やお引越業者などのご紹介 家屋解体、不動産売却業者 / 法律に関する専門家のご紹介など、ご依頼者のニーズに応じて幅広く対応している。



こんにちは。環境カウンセラーの平野と申します。私は今、体を壊しておりまして片づけの現場で働くことができていないのですが、だからこそ、今回は皆さんに元気に健康に暮らしていただくことを念頭においてお話いたします。

私の母が住んでいた実家は物があふれていました。空き家となった家の片づけを私がすることになったのですが、実際に身に降りかかってみると、どこから手をつけていいのか途方に暮れる経験をしました。

【遺品整理と生前整理の違いと特徴】

片づけには「遺品整理」と「生前整理」があるのですが、遺品整理は家族への負担がとても大きいです。特に遺族の方が近くに住んでいない場合やお仕事をされている場合に、家のもの全部を片づけるとなると半年近くかかり、音を上げ

てしまうことが多いです。

生前整理は本人がするものなのですが、これは決して亡くなるための準備というわけではないんです。生前整理には3つのパターンがあります。

【お片づけの意識を行動に移す】

・ライフスタイルにあった環境

まず「①住み替え」、つまり住む場所が変わる場合。例えば戸建てから高齢者用住宅や施設などへ移る場合です。そういった場合、家に残っているものを全て処分しなければならない。この場合、時間に限りがありますから一気にご自身で片づけるのは難しい。

それから「②終活」といわれるものです。これはいつか施設に移る場合や亡くなった後で、家族に迷惑をかけないようにと行われるものです。

次に「③ライフスタイルに合わせて」というもの。たとえば60代くらいの方で、子ども達は独立して子ども部屋がもう必要ないというような場合に、家の中に眠っている不用品を自分の元から手放すことです。

この、終活やライフスタイルに合わせて片づけることを私達は推奨しています。家の中に眠っている不用品を自分の元から手放してあげるということが必要です。

大事なことは話を聞いて納得したら、すぐに行動に移すということです。話を聞いて満足して終わってしまう方が多いんです。

今日からでも始めて、風通しのよい環境を作してほしい。ちりやほこりは衣類や紙などから出てきます。家具の後ろの壁側にはほこりが溜まっています。知らず知らずのうちに、そういう環境の中で暮らしているということです。そういうことを少しでも減らすために、掃除のしやすい家づくりをしていただきたいと思います。

皆さん、「健康寿命」というのをご存じでしょうか。平均寿命とは別です。健康寿命というのは実際に自分の力でなんでもできる年齢のことです。内閣府発表の平成30年版の高齢白書によると、健康寿命は男性72.14歳、女性は74.79歳です。実際の平均寿命は延びていまして、男性81歳、女性が87歳、となっているんですが、健康寿命とこれだけの差があるのです。元気で動けるうちに片づけをやらないと、いざやろうとしたときには体が動かなかったり、集中してできなかったり、うまく考えられなかったりします。私の母も認知症になると、モノ

がどこにあるかわからなくなり、新たにモノをどんどん買い続ける状態でした。一般的に高齢者は不用品が多いです。今使わないものは早く手放してほしいと思います。

・モノが増えすぎた結果

高齢者の方の住まいの特徴としては、だんだん片づけられなくなってくると収納スペースに隙間がないほどモノが詰まっている、つまり使っていないモノが増えているということが挙げられます。あふれたものが床やテーブルの上、はては「2階にはもう上がらなくなったから」と階段に置かれている。置いたものが積み重なって最終的に忘れられてしまう。そして、また買ってしまうということが起きています。必要なものがすぐに見つけられなくて同じものを百均の店などで何度も買ってしまう。探すのに時間の無駄でもあり、お金の無駄でもあります。そして探す時にイライラします。これを今のうちになくしてほしいと思います。

高齢者の部屋において、モノがあふれてしまい、暮らしにくくなり、ごみ出しでさえ大変な状態になってしまうと、もう片づけようとしても無理です。最初に減らしておくところまでにならないと思います。

・なぜモノは増えるのか？

では、なぜモノが増えるのか？ もちろん、買ったりもらったりするからモノは増えるのです。モノは一度に増えるのではなく少しずつ増えていき、気が付いたらこんなになっちゃった、という状態です。こうなるともう一度に片づけられない。1つ増えたら1つ減らす必要があります。



・モノの増加～改善するには

では減らせない原因は何かというと、「もったいないから」、「いつか使うかもしれないから」、「買い置きしないと心配」、「捨て方がわからないから」ということが挙げられます。

今までの片づけの例としては、押し入れの中にブラウン管テレビを入れたままの方もいました。「捨て方がわからないし、場所があるから」と。

どうすればいいかというと、見えないうちに置かないことです。押し入れの奥にしまった贈答の高級シーツが出てきたら、黄ばんでいたということもよくあります。そして、収納グッズの中にしまってしまうわないこと。そういうものは、あることさえも忘れています。見えるところに見える範囲にものを置く。「もったいないから」という場合、自分は使わなくても、捨てずにどこかで利用してもらえるかもしれません。それから、「いつか使うから」という理由。この「いつか」というのはいつなんでしょう。いつか大事な時に使うつもりで忘れてしまって、最終的に御家族がお金を出して処分することになる。それなら捨てる状態になる前に譲ってほしいと思います。

また「買い置きしないと心配」という方。収納スペースを決めておいて、そこを超えたらもう買わないと決めておけば大丈夫です。とにかくあちこちに置かないこと。「捨て方がわからない」という

方は、放置せずに今のうちに市に問い合わせせて処分を始めてください。

【不用品を片付けよう！】

・お片づけのポイント

では片づけのポイントについてお話します。

「モノを減らすための分類」。これはタイミングを決めて行っていただきたいです。まずは「①使っているもの」、「②手放してもいいもの」、「③手放せないもの」、この三つに分ける。①の「使っている物」はもちろん一目でわかるように置き、同じ用途に使うものはグループにして、手の届くところに置いておけば、置き場所を忘れることはありません。②の「手放していいもの」は処分するだけでなくリユースとして売ったり譲ったりしてもいいです。問題は③の「手放せないもの」。もしかしたら痩せたら着られるかも、後でまた見るかも、などと思うものです。これらは保管期間を決めて、保管期間を過ぎたら振り返ってください。果たして今までに使ったか、見たか。それで手放せなかったら、なぜそれを手放せないのか理由を考えてみていただきたいです。一回では無理かもしれませんがこれを何回か繰り返せば、本当に必要なものが見えてきます。例えばアルバム。本当に必要な分だけを残しておいて、のちにどうするか家族で話し合っておいたり、データとして残しておいたりすればいいと思います。

それから適正量を決めてそれ以上増やさない。衣類は1着増えたら1着減らす。毎日違うものを全て着るわけではないと思います。必ず着なくなった服があるはず。そういうものは早めに手元から手放すことが必要です。

・元氣なうちに少しずつ

片づけられない人の多くのパターンは、収納グッズばかり増えていくことです。ハンガーラックなどが増えていきますが、そういう方は、もともとあったタンスには手が付けられておらず、古い衣類がそのままタンスの中にあります。もともとあったものは忘れられ放置されます。

例えば、食器。かつて5人家族で5人分の食器があった。そして今でも、もう使わないのに5人分持っている。次に飾り物。ワイングラスなどを飾りとして、ただ飾っている例もあります。本来は使うものです。本、雑誌は必要なページだけ残しておく。トイレトーパーや洗剤などの消耗品は保管場所を決めておいてください。洗剤を大量に買い置きしていて、全部ごみになった例もあります。本当にもったいないです。必要な分だけ買い置き、保管しておくといいと思います。

片づけは一度にできるものではありませんから、習慣にしてほしいと思います。そして楽しさを覚えると生活の中に組み込まれて、できるようになります。

実際に不用品を片づける場合、売するという方法があります。リサイクルショップやネットなどの利用です。

リサイクルプラザ宮の沢など、無償で引き取ってくれるところもあります。地区リサイクルセンターなどでも資源ごみを引き取ってもらえます。知人や施設に譲る、寄付するという方法もあります。エレクトーンやひな人形を高齢者施設に寄付した例もありました。

古すぎて誰も使わないものは、ごみステーションに出すか、家具類は大型ごみに出します。車や人手があれば処分場に

持ち込むという自己搬入もできます。問題は大きい家具類を自分で運べないという場合。これは運び出し業者に依頼して玄関先まで運んでもらいます。あくまでも玄関先までとなり、業者が勝手にどこかへ運ぶのは違法行為です。

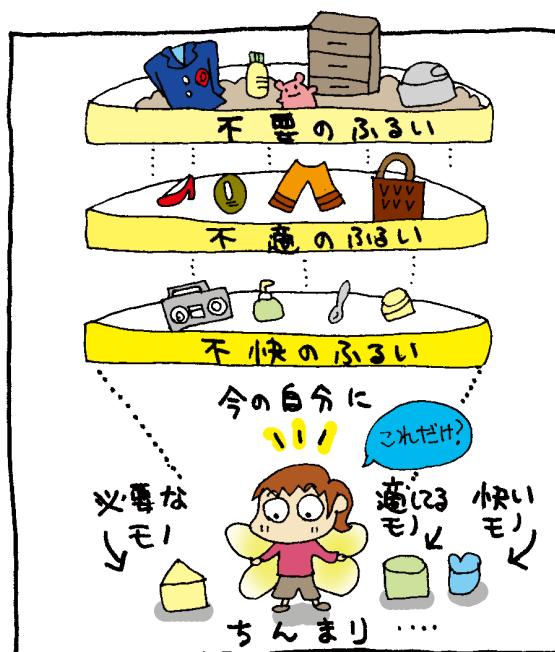
ごみ分けガイドには普通のごみステーションに出せないものも紹介されています。札幌市が収集できないものです。

これは自分で廃棄の手続きをしなければなりません。消火器やリサイクル家電と言われる冷蔵庫、洗濯機、テレビ、エアコン、それからパソコンなども普通のごみとして出すことができません。

・急に大量に片付ける場合

ごみを一度に全部出せるわけではないので、早めに仕分けをしていく必要があります。処分場が市内に数か所ありますが、受け入れているごみの種類がそれぞれ違うので、あらかじめグループ分けしておく必要があります。家具を大型ごみにリユースで出す場合は、その旨を事前に伝える必要があります。

もし、ごみステーションに出せるごみ



でも、400リットルを超える場合は一度に出せません。引っ越しなどで大量のごみが出る場合は、札幌市環境事業公社へ「一時多量ごみ」の収集を依頼しなければなりません。これも、玄関先までは自分で出さなければなりません。これは結構大変なので、今のうちに現在の自分のライフスタイルに合った生活をされるようお勧めします。環境事業公社へ出す場合ですが、1立方メートルあたり5,800円です。250キロを超えるようなとても重いものは重さで計算されます。ごみが大量の場合、処分料だけで約10万円かかった例もあります。これを自分で運べないからと人に依頼した場合、人件費もかかります。自分の敷地内におさまればいいのですが、マンション住まいなどで敷地をはみ出してしまう場合、警察署に連絡をして届け出をしてから出さなければなりません。

【家の中を片付けておくと・・・】

戸建てを売却する場合、家の解体の前に家の中を片づけなければ、解体業者は入ってくれません。そうすると先ほどお話したような処理困難物、一時多量ごみを処理しなければなりません。

戸建ての場合、少なくとも20万～40万円くらいかかります。80万円かかった例もあります。それにプラスして家の解体費用が200万円くらいかかります。庭石や塀などがあるとさらに解体費用がかさみます。実家の家と土地をもらっても、その前に古い家をどうにかしないとどうにもならないことがあります。

ライフスタイルの変化があっても、かつて子どもたちが住んでいた時にあったモノがそのままで生活していたり、もう使っていない家具があったり。買い置き

が多すぎたり、もったいないから手放せなかったり。どのパターンで自分はモノが多いのか考えてみてください。

先ほどの3分類ですが「①使っているもの」、「②手放していいもの」、「③手放せないもの」。この分類を一度にやろうとしないでください。一気にやろうとして押し入れの中のモノを全て出してしまって、それだけで疲れてしまって、もうやる気が出ないこともあります。

例えば、キッチンの引き出しなど小さなところから始めてください。それができるようになったら、玄関→キッチンなど少しずつハードルを上げていって、習慣にしてほしいと思います。モノが減ると達成感が味わえます。たとえ高価なものであっても、不用品は最終的には結局ごみになります。お金を払って処分してもらうことになるのです。特に時間がない場合は、業者に頼んで一気に処分してもらうことになります。そういうことにならないためにも、大切なものを大事に使ってほしいですし、本来の目的で使えないのであれば、本来の目的で使ってもらえる方に早めに譲ってもらいたいと思います。

今の生活がより楽しくスムーズになるように片づけてほしいです。そうすることで、後々多額のお金を払って処分しなくてもいいようになりますし、収納スペースも十分確保できます。ごみが溜まる場所、ごみが出る原因もなくなります。精神的にもイライラしなくなります。

明るい生活を目指して、少しずつ、まずは引き出し一つから。片づけの話を聞くだけでなく、自分のことに置き換えて考えていただければと思います。

ご清聴ありがとうございました。



【第2部】トークディスカッション 質疑応答

<パネリスト>

平野 由美さん（環境カウンセラー）

吉田 長幸さん（一般社団法人札幌市環境事業公社 業務推進室 推進課長）

岡本 俊幸さん（札幌市環境局環境事業部 循環型社会推進課長）

<コーディネーター>

石塚 祐江 （さっぽろスリムネット 副委員長）

石塚：スリムネットワークの副委員長をしております石塚と申します。よろしくお願いいたします。

では、札幌市環境事業公社の吉田課長より、住み替えで多量ごみが出たときにどうしたらよいかをお話ください。

吉田：私ども公社は平成6年4月から市の一般廃棄物収集運搬業許可を受けて、市内約33,000か所の事業所から排出されるごみの収集事業を行っています。



また、市民から400リットル以上の一時多量ごみの収集も行っています。今日のテーマである「元気なうちにお片づけ」という点では、徐々に片づける場合には、普段からごみステーションに出せばいいと思います。家具類などの大型ごみは、大型ごみ収集センターを利用するのが、一番負担が少ないと思います。

その上で、引っ越しなどで一時的に大量のごみが出る場合の方法を紹介させて

いただきます。まず、札幌市の清掃工場などの処理施設へ自分で運ぶことができます。重量によって処理手数料がかかるのですが、このとき、市の指定ごみ袋は使う必要はありません。それから市の地区リサイクルセンターへ資源物を持ち込むこともできます。詳しくはごみ分けガイド25ページを参考にしてください。

400リットル以上の多量ごみについては、私ども、市の許可業者に相談してください。1立方メートル5800円（税別）ですが、これは40リットルのごみ袋25袋分くらいが目安となります。家具は高さや幅などにより料金が異なりますので、できるだけコンパクトにしてくださいと料金の節約になります。

当社は家の中からごみを運び出すことはできないので、家の前までご自分で出していただくことになります。パッカー車が横付けできる場所に出してください。自分で部屋から出すことができない場合は、運び出しを専門にしている民間業者などに依頼してください。

自己搬入もできますが、仕事を休んでレンタカーを借りて、という労力を考えると、環境事業公社を使うこともご検討

ください。収集したものは、基本的にその日のうちに市の処理施設へ運んで市が処理することになりますので、どこかに違法に置いておくというようなことはありません。先ほどのお話にもありましたが、市や公社で収集できないものもありますので、そちらもごみ分けガイドを参考に処理をなさってください。

大量のごみとなる前に、リサイクルショップの活用や、使えるものは誰かに譲るなど、片づけ後に出たごみは、ごみステーションに少しずつ出すことも考えてください。全国的に高齢社会になり、突然病気になったり本人が亡くなったりと、親族や家族が短期間で片づけをすることが多くなっています。このような場合でも、リユースできるものはリユースしてもらい、どうしてもごみになるものはごみステーションに出すか、市の処理施設へ持ち込むか、環境事業公社へご連絡いただければと思います。

出すことも整理することもできない、という方については、民間業者に依頼されることになると思います。その場合も、業者のほうから環境事業公社へ収集の依頼をすることになります。

石塚：急に、いろいろな事情で突然に多量のごみを出さなければならなくな



ったときは、札幌市環境事業公社さんがあるということをお皆さん覚えておいてください。ですが、元気なうちにお片づけをしておく、それも少なくても済むと思います。それでも一年、一年、体力が落ちてきますので、やはり動けるうちにということが必要だと思います。

札幌市も高齢社会を迎え、これから一時多量ごみが増えてくるのではないかと思います。この点について札幌市としてはどのように考えていますか。

岡本：どうしても一時的に大量のごみが出て、やむを得ず処分が必要になることはあると思います。そのような例が増えてきたときにも、環境事業公社さんを通して、市として対応できるように準備していきたいと思います。



高齢者だけの世帯など、日常生活の中で毎日のごみ出しが大変になった場合は「さわやか収集」という制度があります。ごみ分けガイド 19 ページに紹介しています。一定の要件を満たせば、事前登録の上、収集作業員が玄関先から生活ごみを週に一回運び出します。その際の安否確認も請け負っています。大型ごみを玄関先まで部屋の中から収集員が運び出すサービスも行っています。このさわやか収集は年々利用者が増えていますが、これからも対応できるようにしていきたいと思います。

石塚：家の中を片づけるのは元気なうちの自分です。私も 2 年前の引っ越しの際、大量のごみが出ました。最初に手をつけたのがアルバムです。アルバムを 5 回くらい見直したら、5 分の 1 くらいになりました。もう必要ではないものがたくさんあることに気づき、元気なうちの片づけの必要性を感じ、今日のフォーラムを企画しました。

石塚：では次に、会場の参加者の質問について皆さんにお答えいただきたいと思います。

まず、「子どもの幼稚園、学校のお便りや通知表など思い出の品の処分に悩んでいます」という質問です。

平野：まず御家族と話し合ってください。子どもはまだふっきれていないかもしれない。子どもさんたちが思い出として残しておいてほしいという場合は、早いうちに処分を託し、家に

残さない。いつ手放すのかを話し合っておくとよいと思います。

石塚：やはり気持ちの整理がつかないうちに処分するのは心残りですから、皆さん焦らずに。

続いて「古着、着物を出すときに取りに来てくれるでしょうか。代金などは？」という質問です。

平野：二つ方法があって、一つは買い取り業者に買い取ってもらう場合。この場合は自宅まで来てもらい、査定をして買い取りしてもらうということになります。

もう一つは無償で引き取ってもらうという場合。この場合は取りに来てもらうのではなくて、自分で持ち込むことになります。

石塚：次に、モノを手放すコツということで、実際にごみ処分で困っている方からの質問です。一つ目は、「オリーブオイルのびんはどうしたらいいでしょうか」

岡本：びんの場合、「びん・缶・ペットボトル」になりますが、油は落としてから出すようお願いしています。洗い物などの際、最後に残った洗剤を利用して出してください。油が取れない場合は、燃やせないごみとなります。

石塚：洗剤液と水を入れて、よく振って油を落とすと出せるということですね。

次に「市が収集しないごみの専門業者を知りたい。ドラム缶、耐火金庫などはどうやったら専門業者を探せますか」

岡本：素材としては金属でできているので金属商が処理しています。販売店に聞くなどしてください。

石塚：まずは売っている店に相談するといいと思います。処理困難物の案内はごみ分けガイドの16ページになります。次に「古いパソコンを処分したいが、ど

うしたら個人情報を安全に処理できるか。」



平野：大きな家電量販店では物理的にハードディスクに穴をあける機械があります。データ処理を行う業者に送って処理してもらう方法もあります。ただし、処理証明書が出されるだけなので、実際に処理されたかは目で確認できません。

石塚：次の質問ですが「羽毛布団はごみにしかできないのでしょうか」。

岡本：羽毛をリサイクルする業者が全国にいくつかありますが、例えば市で羽毛だけを集めて業者に引き渡すことは、実際に難しい部分があると考えています。再生できるものが限定されていて、羽根布団の場合、ダウンは良いがフェザーは駄目など分類の問題や、保管場所の問題があるためです。

石塚：私のほうからもお尋ねしたいと思います。吉田課長に質問ですが、一時多量ごみのマナーや出すときに気を付けることがあれば教えて下さい。

吉田：まずは収集車を横付けできる場所にごみを出してほしいということです。収集員は手作業なので、運び出しの距離を短くしてほしい。収集用の車は大きく道路が狭くなるので、渋滞になることを避けるため広い場所に出してほしいです。紙くずやビニールごみなどを散らかった状態で出すのはやめていただきたい。できるだけビニール袋や段ボールに入れて出してほしいと思います。散らかると近所からクレームもきます。

それから、コンロやガスボンベなどは車両火災が発生することがあるので、透明の袋に入れて、わかるように出してほしいです。

石塚：なんでも出せるわけではなく、普段私たちがごみ出しするときのように、ごみ分けガイドに準じて出してほしいということですね。

吉田：はい、最低限の分別が必要です。中身が入ったままの漬物容器などを清掃工場に持って行くと破碎処理の支障になるので、それらは有料ごみでごみステーションに出すなどの協力をしてほしいです。

平野：私達が片づける際も一番困るのが、中身が入った缶詰、シャンプーや洗剤、ギフトでもらった油缶などです。

環境事業公社さんへ収集を依頼する際も、縦×横×高さをできるだけ平らにすることで値段が変わるので工夫してください。

石塚：なるべく一時多量ごみを出さないように今からしていきたいですね。

さて、会場の参加者の皆さまにお渡しした資料にあった「モノの手放しチェック」をもう一度ここで一緒に確認してみたいと思います。10年以上着ていない服、サイズが変わった服をどうするか。手放さないのか、手放せないのか。使っていないお土産品はどうか。読み終わった本はどうか。皆さま、いかがでしょうか。

ではフォーラムの最後に、パネリストの皆さんからひと言ずつお願いします。

岡本：日頃のごみ減量の意識が大切だと思います。買う時から手放すときのことを考えてほしいです。市としてごみ減量に取り組んでいます、容器包装プラス



チックや雑がみが燃やせるごみに混ざっていたり、手つかずの食品が出されていたりします。それらは燃やせるごみの2割くらいにのぼっています。

また、最近、充電式電池を使っている製品が出てきましたが、これが他のごみと一緒に捨てられ、リチウムイオン電池による火災事故が全国的に起きています。家電量販店などの回収ボックスに出すようご協力をお願いします。

吉田：電池については、プラスチックごみに出す人もけっこういます。プラスチック選別センターや収集車でも火災の原因になっています。是非、ごみには混ぜないようにお願いします。

一時多量ごみのことや何かわからないことがあれば、環境事業公社にお問い合わせください。オペレーターがきちんと対応いたします。

平野：最後に違法業者について少しお話させてください。「ごみを運び出して持って行ってあげる」と言って、実際に見積もりより多額の費用を請求したり不法投棄をしたりする業者がいますので、そのような違法業者にご注意ください。

石塚：片づけは今日から始まります。札幌市も超高齢化社会に向かっています。皆さんと一緒に、元気なうちに片づけ、ごみ減量に取り組んでいきたいと思います。

本日はありがとうございました。